

第38回麻布環境科学研究会 市民公開講座1

田舎県田舎町“山くじらの郷”の町おこしと麻布大学

嘉戸 隆

島根県美郷町長

島根県美郷町は人口4700人。人口密度が1km²あたり17.3人で島根県19市町村中19番目という「田舎県田舎町」です。当町は“おおち山くじら”という地域ブランド名で地域と獣害との苦闘の歴史から、「イノシシは害獣ではなく貴重な資源」という発想の転換からはじまる“おおち山くじら物語”を展開し全国から注目される町になりました。

実はこの物語のはじまる20年前から麻布大学とは

研究フィールドや学生のホームタウンとして歩んできましたが、今年3月には大学と学術研究や人材育成などを連携する協定を締結し、さらなる山くじらの進化を目指すため町の自然を情報・研究拠点・技術開発のフィールドとして、産官学民の様々な分野の人たちが主体的に集う日本の鳥獣害対策の拠点、いわば鳥獣害対策版シリコンバレー＝美郷バレーの町おこしをお話します。